

「役割語」研究の展望

The 13th EAJIS International Conference at Tallinn
University, Estonia/ 24 August, 2011
金水 敏
大阪大学大学院文学研究科
<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~kinsui/>

1. 役割語とは何か

Quiz

(1) a. おお、そうじゃ、わしが知っておるんじゃ。
b. あら、そうよ、わたくしが知っておりますわ。
c. うん、そうだよ、ぼくが知ってるよ。
d. んだ、んだ、おら知ってるだ。
e. そやそや、わしが知ってまっせー。
f. うむ、さよう、せっしゃが存じておりまする。

1 関西人 2 老人 3 男の子 4 武士 5 田舎もの 6 お嬢様

役割語の定義

ある特定の言葉遣い（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができる、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかに使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができる、その言葉遣いを「役割語」と呼ぶ。
(金水 2003, 205頁)

イメージと
役割語

あれ、何か
変だぞ？

役割語＝話し方と人物像(キャラクタ)の連合

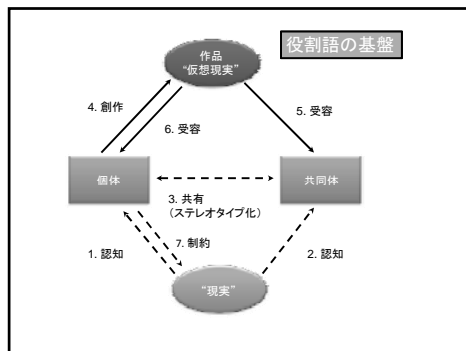
話し方

- 語彙
- 語法
- 言い回し
- イントネーション
- 声質
- 等々...

心理的連合

人物像

- 性別
- 年齢
- 社会的階層
- 職業
- 出身地、国籍
- 性格
- 場面
- 等々...



2. ケーススタディ: 老人語、性差

ケーススタディ1 老人語(博士語)

- 金水(2003)第1章
- 親?わしはアトムの親がわりじゃ／あいつの世話いっさいみておるぞ (13頁)
- 反戸くん／いくらなんでもロボットを人間のおもちゃにしてはいかんよ (285頁)
- とほほ／えらいことになってしまったわい (325頁)

(以上、手塚治虫『鉄腕アトム』第三集、講談社、1987)

- (画像をカットしました)

老人語の“非現実性”

- (画像をカットしました)

お茶の水博士の言語的特徴

	お茶の水博士	標準語
断定	～じゃ	～だ
打ち消し	～ん	～ない
人間の存在	おる	いる
進行・結果	～とる	～てる、ている

博士語・老人語と東西方言

- (画像をカットしました)

博士語・老人語の遡行 (戦前・戦後のマンガ・子供読み物)

- (画像をカットしました)


猿飛佐助(立川文庫)(大正時代)



老「コリヤ佐助い、汝は何故正体なく寝込んで居る、乃公(おれ)が此處へ来たのが分からぬか」と、叱り付けられ、佐助は目を振り上げ起き直り、佐「アア、これはお師匠様……。老「黙れッ。武術を心掛けて居る者が、前後を知らぬ程復ると云ふ事があるか、暗夜の寝と云ふではないか、何日何時敵に出逢はずやも分らん、万事に油断は大敵じゃ、今夜は許すが、此の後何日来るやも分らんから、乃公(おれ)が来たとき寝て居ると、殴りつけるぞッ」と、云ひ捨て何処ともなく立ち去った。(立川文庫『猿飛佐助』一九一四年初出。)

戸沢白雲著と藤島武雄『猿飛佐助』『立川文庫』第41号、5頁

『安愚楽鍋』(明治初期戯作)



「アへけるはさむかつた／＼たまに病室(びやうか)から人が来たと思つたら患者などにはなにか半も付られぬ難症の様字じやから切腹やうとは思つたが、まよあやうい腹(はし)も潰らんければまくれぢりといふこともないと思考して診察して居る船医(ふねい)共から立合せする西洋家の假病醫(かりびい)が出かけて居た。おつたその病をやつて置(き)ぐに、脚(あし)も潰れぬらんが腹(はし)を潰して見たところが腹(はし)なかな／＼の功(こう)を奏(そう)へて患者(びやうか)が足下(あしもと)へおつ付(つ)くことではないからいかにげんごまかしをいって居て来たが、当期(このとき)のやうに原道(はらみち)が寝(ね)んにひらけては一文不通(いちもんつう)の患者(びやうか)が医者(いしや)の真似(まね)をしてある船(ふね)とこ)ではない乎」

(『新撰生の不養生』『明治雑誌』安愚楽鍋三篇上十八丁表、初版は一八七二年)

- (画像をカットしました)

東海道四谷怪談 (江戸後期歌舞伎)

(孫兵衛)ア、何じや此衆(こゝろ)は。物もらいにしては、扱(さて)人(ひと)がらのよひ女(メ)非人(ひと)。コレ、こなた衆(こなた)は此川(この)ばたに、いやるからは、ひとつと愛(こゝろ)へ、アノ、杉戸(すぎど)にぬふたる男(おとこ)と女の、うき死(し)がいが流(なが)ては来(き)はせぬか。どふじや／＼

(民谷伊右衛門)ア、そんならまだにげないのか。エ、ちのあかないやつだ。

(『東海道四谷怪談』、初演は1825年)

- (画像をカットしました)

江戸語の形成と上方語の位置づけ

- 小松(1985): 江戸中期以降、「江戸っ子」意識の発生とともに、下層階級から「江戸ことば」が広がる
- 階層的対立(小松)とともに、世代的対立もあつたか(金水 2003:第1章)
- 老人: 上方語 ↔ 若者: 江戸語
- 大衆的メディア(戯作、歌舞伎等)における誇張的表現
- 江戸語から東京語・標準語へ

江戸語と上方語



江戸語から標準語へ

江戸時代	江戸語	上方語
	↓	↓
近代	東京語	↓
	↓	↓
(役割語)	標準語	老人語

〈老人語〉の形成

- 現実からステレオタイプへ
- ポピュラーカルチャーの中での継承
- 250年間以上もの命
- 東京語＞標準語の確立と、上方語の没落

男ことば・女ことばの起源

- 男ことば
江戸時代の町人ことば＋明治時代の書生言葉
- 女ことば
江戸時代の遊ばせ言葉＋明治時代の女学生言葉(テヨダワ言葉)

明治時代
「書生語」としての「ぼく」

小松寿雄『一読三款 当世書生気質』の江戸語的特色より「書生言葉の特色」

1. 「ぼく」「吾輩」を多用。
2. 「きみ」を多用。
3. 命令表現として「たまへ」「べし」を多用
4. あいさつ言葉として「失敬」
5. 漢語・外来語の多用

『当世書生気質』より

(小)アハハハハ。馬鹿(ばか)ア言ひたまへ。それはそうと。諸君(しよくん)はモウ。不残(みんぬ)帰(かへ)つてしまつたのか
(須)ウン。今(いま)漸(やうやく)帰(かへ)してやつた。(中略)
(小)僕(ぼく)はまた彼処(あそこ)の松(まつ)の木(き)下(した)へ酔倒(えひたふ)れて居(あ)たもんだから。前後(ぜんご)の事(こと)はまるで知(し)らず。それやア失敬(しつげい)だつたネエ。ちつとヘルプ[手助(てだすけ)]すればよかつた
(1885<明治18>～1886<明治19>年刊)

「おれ」の語誌

- 『日本国語大辞典第2版』より
- ① 対称(後略)
- ② 自称。広く貴賤男女を問わず目上にも目下にも用いた。(中略)中世以降使われ、特に近世以降多用された。貴賤男女の別なく用いられたが、近世の後半期頃から女性の使用が絶えた。同等もしくは目下に対する使用例が多いが、目上に対する用例もあり、江戸期までは現代のように特にくだけたことばとはいえない。

「ぼく」の語誌

- ① 男のめしつかい。下男。しもべ。
- ② 男子の自称。(中略)漢文の中では、古代から男子の、非常にへり下った表現として見られるが、訓読されるのが一般的であった。奈良時代の訓は不明だが、平安時代以後は「やつがれ」がふつう。江戸時代の漢文から「ぼく」の形で、対等もしくは目下の者に対する自称の代名詞として青年・書生などが使った。以後多用されるようになり、現代では、年齢にかかわらず用いられるが、特に少年男子の自称として広く用いられる。

「ああ玉杯に花うけて」より

- (光一)「このつぎの日曜にね、ぼくの誕生日だから、昼からでも…晩からでも遊びにきてくれたまえね」
- 生蕃はしばらく考えたが、やがて大きな声でわらいだした。
「おまえはおれにけんかをよさせようと思ってるんだろう。それだけはいけない」

(1927～1928)

文部省「礼法要項」
(1941(昭和16)年)

- 自称は、通常「私」を用いる。長上に対しては氏又は名を用いることがある。男子は同輩に対しては「僕」を用いてもよいが、長上に対しては用ひてはならない。
- 対称は、長上に対しては、身分に応じて相当の敬称を用ひる。
- 同輩に対しては、通常「あなた」を用ひ、男子は「君」を用ひてもよい。

あめふり(北原白秋)
詩集『太陽と木銃』(1943(昭和18)年)

(一番)
雨雨、ふれふれ、母さんが
蛇の目でおむかひうれしいな。
ピツチピツチ チャツプチャツプ
ランランラン。

(四番)
母さん、僕のを貸しましよか。
君君この傘さしたまへ。
ピツチピツチ チャツプチャツプ
ランランラン。

(三番)
あらあら、あの子はずぶぬれた
柳の根かたで泣いてゐる。

戦後のマンガより

- (画像をカットしました)

江戸時代:江戸の女のことば

- 江戸時代:女房言葉を起源とする「遊ばせことば」
あなたがお屋敷にお出(いで)遊(あすば)す時は、お部屋中で評判のお結構人でした。(浮世風呂・二編)
- 庶民の江戸ことばには性差は乏しい
なんの、しやらっせへ。お髪(ぐし)だの、へつたくれだのと、そんな遊(あそば)せ詞(ことば)は見つとむねへ。(浮世風呂・二編)

明治の女学生ことば=てよだわ言葉

近年女学の勃興するに従ひ比較的下流社会の子女が極めて多数に各女学校に入学するに至りしより所謂(いわゆる)お店(たな)の娘小児(むすめこども)が用ゆる言語が女学生間に用ひらるゝに至れること左(さ)に掲ぐる例の如し
○なくなつちやつた○おーやーだ○行つてよ○見
てよ○行くことよ○よくつてよ(1905(明治38)年3月16日『讀賣新聞』)



『不如帰』(明治時代)

浪子はそつと武男の膝に手を投げて溜息(といき)つき
「いつまでもこうしてどうぞいますこと！」
浪子はふと思ひ出(い)でたように頭を上げつ。
「あなたいらつしやいますゆ、山木に？」
「山木かい、母(おつか)さんがあおつしやるからね——行かずはなるまい」
「ほほ、わたくしも行きたいわ」
「行きなさいとも、行こういっしょに」
「ほほほ、よしませう」
「なぜ？」
「こわいでもゆ」
(1898(明治31)～1899(明治32)『不如帰』)

大正時代の新聞マンガ
「ひとり娘のひね子さん」

(画像をカットしました)

吉屋信子の少女小説(昭和初期)

「江島さん、先生のおデイヤでせう。いつも餘の天才だつておほめになるんですもの——何んでせう、今日も皆私達を遣ひ出して江島さん一人お残りなさいつて、ずあふんねえ」
「ほんたうよ、いつたい何んの御用でせう？」
「きつと、お二人だけで仲よくストーブを占領なさるおつもりよ」
「まさか、——でも私とても気がもめるわ、あとでそつと窓から覗いて見ませうか」
「まあ、そんな醜態お止し遊ばせよ！」
「でも、関戸先生は生徒に騒がれる割に冷静で公平無私ね」
「さうよ、私もう三度も綺麗なお花を歌けて居るのに、ちつとも特別(スペシャル)に扱かつて下さらないんですもの——」
(吉屋信子『桜貝』実業之日本社、1935年刊、26頁)

戦後の女性言葉

- 現実の東京などでは、「てよだわ」言葉のうち、「よくてよ」「きれいだと」「～ですわ」「～ますわ」等の要素はまれになった。これらの要素は、役割語として「お嬢様」「奥様」「お姫様」など、高い品位を持つ女性の表現に用いられるようになった。また、「お嬢様」はリアリティが薄れ、パロディ的な表現の対象になっている。
- 近年では、女ことばはむしろ「年配の女性」のイメージが強まりつつある。若い女性は「～だよ」「～だね」が常態となっている(「～だ」単独の断定など、強い表現は未だまれ)。
- さらに、「ギャル語」的な表現では従来の女性性を表す指標はいっさい消えている。性差も乏しい。(ex. 浜田プリトニー、柳原可奈子のギャル芸、木下優樹菜等)

エースをねらえ！(1973～1980)

お蝶「きょうはずいぶんポーズがくずれていたようね／
おうちにかえったら鏡の前でくふうしなさい／
欠点がよくわかってよ」
(中公文庫版、1、17頁)

部員「岡さんには...まだ選手はつとまりません／音羽さんが適当だと...」
お蝶「あたくしも賛成ですわ／音羽さんはいつも選手で実力があって」
(同、23頁)

- (画像をカットしました)

- (画像をカットしました)

命令形と性差

- “Stop!”
やめろ! (真性命令形, 男性専用)
cf. やめてくれ、やめてくれないか、やめるんだ
やめて! (依頼形, F>M)
cf. やめて、やめてよ、やめてちょうだい、やめてほしいの

「花とみつばち」(2000)

「近頃めずらしい働きモンだなオメーは」
「見習いたいもんだよ」
つーか金くれ」
「もってんだろ沢山」
「出せ早く」
(安野モヨコ (2000) 『花とみつばち』講談社)

- (画像をカットしました)

- (画像をカットしました)

命令形と翻訳(女性の場合)

- “Talk about an entrance,” Vittoria said. (中略) “Red carpet greeting. That’s Rocher.” Langdon pounded his fist on the banister. “somebody’s got to warn them!” He turned to go.
Vittoria caught his arm. “Wait!”
(Dan Brown (2000) *Angels & Demons*, Pocket Books, NY, 2006, p. 563)
- 「あんなふうに登壇するなんて」ヴィットリアは言った。(中略)「赤絨毯でお出迎えよ。ロシェだわ」
ラングドンはこぶしを手すりに叩きつけた。「警告しなくてはい！」そう言って部屋へもどろうとした。
ヴィットリアはその腕をつかんだ。「待って！」
(ダン・ブラウン(著) 越前敏弥(訳) (2006) 『天使と悪魔』(下)、角川文庫、131頁)

3. さまざまな研究の展開



金水 敏
『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』
(岩波書店、2003) 「役割語」初の書籍



金水 敏(編著)
『役割語研究の地平』
(くろしお出版、2007) 論文集第1弾



金水 敏(編著)
『役割語研究の展開』
(くろしお出版、2011) 論文集第2弾

対照研究と翻訳論・翻訳研究

- 韓国語: 鄭 (2007); 定延 (2007)
- 英語: 山口 (2007)
- ドイツ語: 細川 (2011)
- 中国語: 定延・張 (2007); 川崎 (2010)
- スペイン語: 福嶋 (2010)

- 翻訳: ガウバツ (2007); 金水 (2011a); 鄭 (2011)
太田 (2011) ※スポーツニュースのテロップ研究

英語の役割語と翻訳

- 山口 (2007) の挙げた例:
 - 視覚方言と非標準的綴り: 方言話者のことば(『ハリー・ポッター』のハグリッド)
 - ビジン英語と「引き算式」マーキング: 中国系探偵のことば
 - 人称という名のオプション: しもべ妖精トビーのことば
 - 幼児語と擬音語: トウイーティーのことば
- その他、「ハックルベリー・フィン」(ガウバツ 2007) 「風とともに去りぬ」 「マイ・フェア・レディ」等
- 英語にないものを日本語訳に付け加える: 例えば老人語。山口 (2007); 金水 (2011a)

ハックルベリー・フィンの冒険

「ハックルベリー・フィンの冒険」(Huckleberry Finn)のほうげん、Adventures of Huckleberry Finn)は、マーク・トウェインことサミュエル・クレメンズにより1885年に発表された、最初のグレート・アメリカン・ノベルとして一般には知られている。また本書は、トム・ソーヤー(マーク・トウェインの他の三篇の作品の主人公)の親友であるハックルベリー(ハック)・フィンによって語られる。方言あるいは話し言葉で書かれた最初の小説の一つである。この作品は1885年2月18日に初版が出版された。『ハックルベリー・フィンの冒険』は、優れた児童小説の一例でもある。なお、タイプライターで書かれた、世界で初めての小説でもある。(wikipedia)



(序文)

本書には数種の方言が用いられている。すなわち、ミズーリ州の黒人方言、南西地方奥地の極端な方言、普通の「バイク郡」方言および、それから派生した四種の方言などである。その使い分けは、でたらめや推測によってなされたものではなく、以上の各種方言と親しく接した経験による確かな知識をもとにして、苦心して行なわれたものである。

このような解説を記した理由は、さもないと多くの読者が、本書の登場人物はすべて、同じ言葉で話そうとして、うまくゆかなかったものと、誤解されてはこまると思ったからである。

作者
Twain、西田訳(1977)上、p.15

- You don't know about me, without you have read a book by the name of *The Adventures of Tom Sawyer*, but that ain't no matter. That book was made by Mr Mark Twain, and he told the truth, mainly. There was things which he stretched, but mainly he told the truth. That is nothing. Twain(1885) , p.49
- 「ははのことは、『トム・ソーヤーの冒険』という本を読んだ人でなければ、だれも知るえが、そんなことははまわねえ。その本はマーク・トウェインさんが書いたもんで、あらまはは本当のことが書いてある。少しはまつたももあるが、あらまはは本当だ。でも、どうかってはどのこととえねえ。」 西田訳(1977)上、p.17
- 英語を母語としない読者には、この文章は相当分りにくいと思われる。教科書などに出てくる英語あるいは米語の標準語とはかなり異なり、標準語として読めば「間違い」と書えるところも多くある。最初の文の「without」は標準語の「unless」の、「ain't no」は「isn't any」の誤った言い方である。そして三行目の単数動詞である「was」は複数名詞の「things」の動詞として使われている。この文は米語を母語とする読者には、ある一定の印象を与える。それは「研けた」「磨った」「話し言葉」のんびりしたといった印象である。語の用法から「敬愛がない」感じもし、「アメリカ南部の人」「田舎者」などのイメージもくみとれる。(ガウバツ 2007)

ドイツのマンガ作品より。細川 (2011) 参照。

(画像をカットしました)

(画像をカットしました)

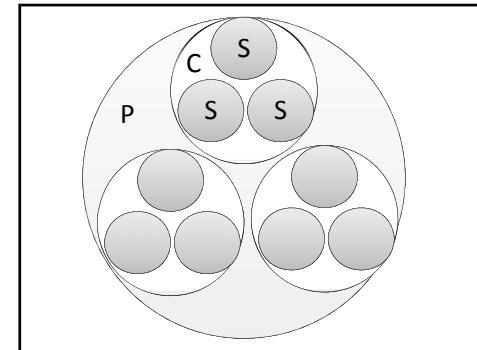
役割語知識の習得

- 菅 (2011)
- 3歳児と5歳児を対象として2010年に実験
- 視覚刺激としてキャラクタの画像を示し、読み上げの録音再生による音声刺激を与え、画像を選択させる。
- 3歳児には選択に有意な差がなく、5歳児には明瞭な有意差が現れた。
- 今後、実験手法を精密化し、どんな要素が判断に効いているかを明らかにしていきたい。



キャラクタ論

- 定延 (2011) のキャラクタ論
 - 人格 (personality): 話者にとって選択不可能な基本的属性 (性別・国籍・民族性等)
 - キャラクタ (character): 一般に選択不可能と思われがちだが実は選択可能な属性。社会的立場や役割、対人的態度等。(ex. 妻～(義)娘～母～近所のおばちゃん～教授等)
 - スタイル (style): 話者が用途や媒体等によって使い分けられる言語的要素の集合。(ex. 丁寧体・普通体、書き言葉・話し言葉等)
- スタイルの集合がキャラクタに対し、選択可能なキャラクタの集合が人格を構成すると言い換えられる。
- すべてのスタイルは、それを選択可能なキャラクタ～人格を持っているという点で、広義役割語と見なすことができるが、そのキャラクタ～人格の狭さ・広さ、特殊性・一般性によって、“役割語らしさ”が違って見える。



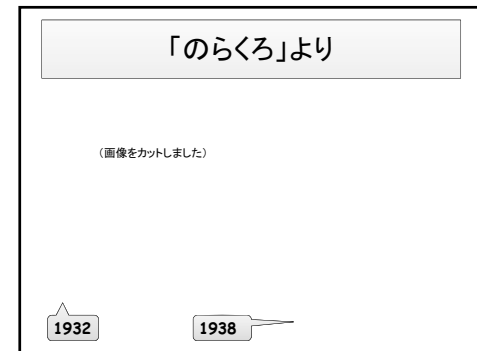
社会的ステレオタイプに基づく 役割語のマトリックス

	(中央)		周縁
	男	女	
老年	老人語	おばあさん語	田舎言葉・関西弁等
青年・壮年	男ことば	女ことば	
(職層)	上司語 ヤクザ語・ヤンキー語	お嬢様・奥様語 スワカシ語・モテ言葉	
子供	少年語	少女語	
幼児	幼児語		

さらに、(軍隊語)(店員語)など、職業にまつわる場面依存的役割語もある。

言語接触とピジン由来の役割語

- 〈アルヨことば〉の起源と歴史: 金水 (2003; 2007; 2008a)
 - 幕末、横浜開港場で発生した日本語ベースのピジンの一部が、明治時代以降大陸に持ち込まれ、新たな日本語ベースや中国語ベースのピジンの母体となった。Cf. 「協和語」「兵隊支那語」「沿線官話」等。このピジンが一方で日本における中国人の表現に用いられ、一方で中国における“日本鬼子”の表現に用いられている。
- 西洋人訛の日本語: 依田 (2007; 2011)
 - 「オー、ソレハ知りマセンデース」等



石ノ森章太郎「サイボーグ009」 (1964-1986)

- 006 中国人
- 普段は中華料理店のコック
- 道化的役割
- 〈アルヨことば〉を話す
- 「おそろし世の中にならばあったあるなあ…」

(画像をカットしました)

教育への応用

- 日本語教育については後述
- 人文学入門としての役割語:
 - 金水は、大阪大学文学部の「国語学演習」で毎年、役割語についての演習を学生に課している。自分の知識の範囲内で理解でき、自分の興味のある資料を手がかりに調査ができ、発表まで持っていくことができる。またフロアの学生も、その場で議論に参加することができる。学部レベルの調査・研究が、最先端の研究でもあるので、学生にとってやりがいがある。もともと学際的な領域なので、役割語を入り口にさまざまな専門領域につなげていくこともたやすい。卒業論文に役割語を選ぶ学生も毎年のように出ている。その成果の一部は金水(編) (2011) に公表した。

4. 日本語教育における 役割語の貢献

恩塚 (2011) より

(中略) 私達が大学や大学院などの高等教育機関で教授対象としている学習者は、単に日本人が話している日本語がそのまま話せて、意思疎通ができればいいというのではない、確かに最近の日本語学習者の学習動機やニーズは以前とは異なってきている。しかし、後々、文学作品や脚本などを理解しなければならぬ状況に接するかもしれない学習者には、日本語教師はその発話の「象徴的意味」も理解できる日本語を教えるプロとしての自覚を持たなければならない。

(中略)

教科書とは学習者のレベルやその目的に合ったそれぞれのバーチャルな世界を提示して、目標言語の習得に導くものである。主となる言語情報(文法・語彙・意味・表記・音声学的要素等)に加えて、学習者のレベルやニーズに合わせたテキストに現れる役割語を通じて、学習者はバーチャルな日本語を学ぶ。

バーチャルではあるが、それは「簡約日本語」のような、決して現実社会で「ありえない日本語」ではない、むしろ基本的で普遍的な役割語的要素が、学習者を「TPOに合わせた日本語＝真の生きた日本語」が使えるようにしていくのである。(恩塚 2011: 67~68頁)

金水 (2011 / 印刷中) より

日本語学習者はひとつのキャラクタであり、日本語学習者が話す日本語は〈日本語学習者の日本語〉という役割語である。日本語学習者は、〈日本語学習者〉というキャラクタをロールプレイングしているのである。このキャラクタを踏み外したり、ふれたり、途中で変わったりしたら、周囲の人から不審に思われたり、誤解が生じたりするだろう。ロールプレイングも熟達し、内面化するほどまでにいたればそれは立派な人格であるが、そこまで行かないうちは、教師は慎重に学習者のキャラクタ作りの手伝いをしなければならないだろう。例えば若い男性の学習者は、自称詞として「おれ」を使いたがるかも知れない。しかしこの選択は、うまくいけば日本人の反だちと打ち解けることができるかもしれないが、たどたどしい会話の中で「おれ」を散えて使うとひどく違和感が生じる、危険な選択でもある。

最後に

- 役割語は、ポピュラーカルチャーに特化された特殊な言語ではなく、言語の本質を捉えるための有効な視点の一つである。
- 今後とも、多くの複数の領域の研究者に興味をもっていただき、議論を深めていくことができれば幸いです。
- 英語論文のご紹介：
Teshigawara, M. and Kinsui, S. (2011 / in printing) "Modern Japanese Role Language (Yakuwarigo): Fictionalized Orality in Japanese Literature and Popular Culture," in *Sociolinguistic Studies*, Vol. 5, No. 1.

ご静聴ありがとうございました